

男女共同参画に関する市民アンケート結果概要

【資料2】

1. 目的

令和6年度から新たな「青森市男女共同参画プラン」を策定するに当たり、男女共同参画に関する市民の意識と実態について調査し、今後の取組等を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施したものの。

2. 実施内容

- (1) 調査対象 市内に在住する満16歳以上の男女 ※男女各500人を無作為抽出
- (2) 調査期間 令和5年12月22日（金）から令和6年1月19日（金）
- (3) 調査方法 上記の方法で抽出した市民に対し、自記・無記名式の調査票を郵送配付、郵送またはオンラインにて回収
- (4) 有効回収数 349件（有効回収率34.9%）

項目	男性		女性		答えない		無回答		総計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
10歳代	5人	3.3%	2人	1.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	7人	2.0%
20歳代	9人	6.0%	6人	3.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	15人	4.3%
30歳代	15人	10.0%	29人	14.9%	1人	50.0%	0人	0.0%	45人	12.9%
40歳代	21人	14.0%	29人	14.9%	1人	50.0%	0人	0.0%	51人	14.6%
50歳代	31人	20.7%	32人	16.4%	0人	0.0%	0人	0.0%	63人	18.1%
60歳代	28人	18.7%	40人	20.5%	0人	0.0%	0人	0.0%	68人	19.5%
70歳代	30人	20.0%	40人	20.5%	0人	0.0%	0人	0.0%	70人	20.1%
80歳代	11人	7.3%	15人	7.7%	0人	0.0%	1人	50.0%	27人	7.7%
90歳代以上	0人	0.0%	2人	1.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	2人	0.6%
無回答	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	50.0%	1人	0.3%
総計	150人	43.0%	195人	55.9%	2人	0.6%	2人	0.6%	349人	100.0%

3. 調査内容

- ・回答者自身のことからについて
- ・男女共同参画に関する意識について
- ・仕事、家庭、地域活動における男女共同参画について
- ・配偶者やパートナーからの暴力について
- ・性の多様なあり方について
- ・男女共同参画社会の実現について

【参考】平成26年度第3回青森市民意識調査実施概要

- (1) 調査対象者 市内に在住する満16歳以上の男女3,000人
※住民基本台帳から等間隔無作為抽出
- (2) 調査方法 自記・無記名式の調査票を郵送配付、郵送回収
- (3) 調査期間 平成26年11月4日から11月21日
- (4) 有効回収数 1,530件（有効回収率51.0%）
- (5) 設問数 50問 ※うち男女共同参画に関する設問は15問

※比率の母数は各設問における、それぞれの性別の有効回答者数です。

属性

【性別】

項目	回答数	比率
男性	150	43.0%
女性	195	55.9%
答えない	2	0.6%
無回答	2	0.6%
総計	349	100.0%

【年齢】

項目	男性		女性		答えない		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
10歳代	5	3.3%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	2.0%
20歳代	9	6.0%	6	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	15	4.3%
30歳代	15	10.0%	29	14.9%	1	50.0%	0	0.0%	45	12.9%
40歳代	21	14.0%	29	14.9%	1	50.0%	0	0.0%	51	14.6%
50歳代	31	20.7%	32	16.4%	0	0.0%	0	0.0%	63	18.1%
60歳代	28	18.7%	40	20.5%	0	0.0%	0	0.0%	68	19.5%
70歳代	30	20.0%	40	20.5%	0	0.0%	0	0.0%	70	20.1%
80歳代	11	7.3%	15	7.7%	0	0.0%	1	50.0%	27	7.7%
90歳代以上	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	0.3%
総計	150	100.0%	195	100.0%	2	100.0%	2	100.0%	349	100.0%

【結婚の有無】

項目	男性		女性		答えない		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
結婚（事実婚を含む）している	91	60.7%	117	60.0%	0	0.0%	1	50.0%	209	59.9%
結婚（事実婚を含む）したが離別・死別した	14	9.3%	49	25.1%	0	0.0%	0	0.0%	63	18.1%
結婚（事実婚を含む）したことがない	45	30.0%	29	14.9%	2	100.0%	0	0.0%	76	21.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	0.3%
総計	150	100.0%	195	100.0%	2	100.0%	2	100.0%	349	100.0%

【働き方（本人）】

項目	男性		女性		答えない		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
会社・団体などの役員	11	7.3%	4	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	15	4.3%
正規の社員・職員	49	32.7%	52	26.7%	0	0.0%	1	50.0%	102	29.2%
派遣・契約社員	5	3.3%	7	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	12	3.4%
パート・アルバイト等非正規社員	14	9.3%	39	20.0%	1	50.0%	0	0.0%	54	15.5%
自営業・家族従業	15	10.0%	7	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	22	6.3%
家事専業	1	0.7%	31	15.9%	0	0.0%	0	0.0%	32	9.2%
学生	9	6.0%	4	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	13	3.7%
無職	40	26.7%	41	21.0%	0	0.0%	0	0.0%	81	23.2%
その他	5	3.3%	3	1.5%	1	50.0%	0	0.0%	9	2.6%
無回答	1	0.7%	7	3.6%	0	0.0%	1	50.0%	9	2.6%
総計	150	100.0%	195	100.0%	2	100.0%	2	100.0%	349	100.0%

【働き方（配偶者・パートナー）】

項目	男性		女性		答えない		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
会社・団体などの役員	0	0.0%	8	6.8%	—	—	0	0.0%	8	3.8%
正規の社員・職員	17	18.7%	51	43.6%	—	—	1	100.0%	69	33.0%
派遣・契約社員	0	0.0%	1	0.9%	—	—	0	0.0%	1	0.5%
パート・アルバイト等非正規社員	17	18.7%	5	4.3%	—	—	0	0.0%	22	10.5%
自営業・家族従業	4	4.4%	8	6.8%	—	—	0	0.0%	12	5.7%
家事専業	12	13.2%	1	0.9%	—	—	0	0.0%	13	6.2%
学生	0	0.0%	0	0.0%	—	—	0	0.0%	0	0.0%
無職	34	37.4%	36	30.8%	—	—	0	0.0%	70	33.5%
その他	0	0.0%	1	0.9%	—	—	0	0.0%	1	0.5%
無回答	7	7.7%	6	5.1%	—	—	0	0.0%	13	6.2%
総計	91	100.0%	117	100.0%	—	—	1	100.0%	209	100.0%

【同居家族】

項目	男性		女性		答えない		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
同居の家族はいない	28	18.7%	27	13.8%	0	0.0%	0	0.0%	55	15.8%
配偶者・パートナー	82	54.7%	106	54.4%	0	0.0%	1	50.0%	189	54.2%
親（配偶者・パートナーの親を含む）	43	28.7%	40	20.5%	2	100.0%	0	0.0%	85	24.4%
子	45	30.0%	85	43.6%	0	0.0%	1	50.0%	131	37.5%
祖父母	2	1.3%	3	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.4%
孫	6	4.0%	13	6.7%	0	0.0%	1	50.0%	20	5.7%
兄弟姉妹	10	6.7%	8	4.1%	2	100.0%	0	0.0%	20	5.7%
その他	2	1.3%	4	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.7%
無回答	3	2.0%	4	2.1%	0	0.0%	1	50.0%	8	2.3%

【同居している子の年代】

項目	男性		女性		答えない		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
未就学児	3	2.0%	20	10.3%	0	—	0	—	23	6.6%
小学生	13	8.7%	18	9.2%	0	—	0	—	31	8.9%
中学生	11	7.3%	8	4.1%	0	—	0	—	19	5.4%
高校生	3	2.0%	11	5.6%	0	—	0	—	14	4.0%
その他	1	0.7%	1	0.5%	0	—	0	—	2	0.6%

※比率の母数は各設問における、それぞれの性別の有効回答数です。
 ※比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない場合があります。
 ※網掛け部分は、各設問におけるそれぞれの性別で最も比率が高かった項目です。

男女共同参画に関する意識について

(1) 各分野における男女の平等感について 問7関連 (単一回答)

■家庭生活

項目	男性	女性	【参考】H26年度調査との差	
			男性	女性
平等である	46.0%	27.2%	22.3	17.5
どちらかといえば男性の方が優遇されている	28.0%	31.3%		
どちらかといえば女性の方が優遇されている	9.3%	5.6%		
女性の方が優遇されている	4.0%	2.6%		
男性の方が優遇されている	3.3%	19.0%		
わからない	7.3%	10.8%		
無回答	2.0%	3.6%		

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問29 家庭生活上で男女の地位が平等になっていると思うか。

項目	男性	女性
平等だと思う	23.7%	9.7%
どちらかといえば平等だと思う	28.7%	22.5%
どちらかといえば平等だと思わない	21.8%	26.5%
平等だと思わない	13.8%	28.6%
どちらともいえない	9.3%	8.3%
無回答	2.7%	4.3%

男女で比べると、男性では「平等である」と答えた比率が46.0%であるのに対し、女性では27.2%となっており、18.8ポイントの差がある。また、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた比率が最も高く、男女間で意識に差があることが分かる。

平成26年度第3回市民意識調査（以下、平成26年度調査という）との比較では男女ともに「平等である」と答えた比率が大幅に上昇している。

■職場

項目	男性	女性	【参考】H26年度調査との差	
			男性	女性
平等である	44.7%	28.7%	39.1	25.7
どちらかといえば男性の方が優遇されている	26.0%	29.2%		
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.7%	5.1%		
男性の方が優遇されている	11.3%	15.9%		
女性の方が優遇されている	2.0%	0.5%		
わからない	6.0%	12.8%		
無回答	3.3%	7.7%		

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問29 職場では男女の地位が平等になっていると思うか。

項目	男性	女性
平等だと思う	5.6%	3.0%
どちらかといえば平等だと思う	13.6%	10.8%
どちらかといえば平等だと思わない	34.0%	29.6%
平等だと思わない	35.4%	40.2%
どちらともいえない	7.9%	9.7%
無回答	3.5%	6.6%

「家庭生活」と同様に、男女で比べると、男性では「平等である」と答えた比率が44.7%であるのに対し、女性では28.7%となっており、16ポイントの差がある。また、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた比率が最も高く、男女間で意識に差があることが分かる。

平成26年度調査との比較では男女ともに「平等である」と答えた比率が大幅に上昇してい

■学校教育

項目	男性	女性	【参考】H26年度調査との差	
			男性	女性
平等である	52.7%	42.1%	30.1	31.8
どちらかといえば男性の方が優遇されている	4.7%	14.4%		
どちらかといえば女性の方が優遇されている	7.3%	1.0%		
男性の方が優遇されている	4.0%	4.1%		
女性の方が優遇されている	1.3%	0.0%		
わからない	20.7%	26.7%		
無回答	9.3%	11.8%		

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問29 学校教育の場で男女の地位が平等になっていると思うか。

項目	男性	女性
平等だと思う	22.6%	10.3%
どちらかといえば平等だと思う	29.3%	31.4%
どちらかといえば平等だと思わない	16.2%	19.9%
平等だと思わない	12.7%	14.2%
どちらともいえない	13.6%	16.1%
無回答	5.6%	8.2%

「学校教育」における平等感では男女間に大きな差は見られず、男女ともに「平等である」と答えた比率が最も高かった。

ほかの分野と比べ「わからない」を選択した比率が高いのは、身近に学齢期の親族などがない場合だと考えられる。

平成26年度調査との比較では男女ともに「平等である」と答えた比率が大幅に上昇している。

■地域活動（町会（町内会）やPTA）

項目	男性	女性	【参考】H26年度調査との差	
			男性	女性
平等である	45.3%	26.2%	32.0	21.6
どちらかといえば男性の方が優遇されている	20.0%	29.7%		
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.0%	2.1%		
男性の方が優遇されている	6.7%	13.3%		
女性の方が優遇されている	2.0%	0.0%		
わからない	18.7%	23.1%		
無回答	3.3%	5.6%		

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問29 地域活動の場で男女の地位が平等になっていると思うか。

項目	男性	女性
平等だと思う	13.3%	4.6%
どちらかといえば平等だと思う	26.9%	22.5%
どちらかといえば平等だと思わない	26.6%	26.9%
平等だと思わない	17.1%	20.8%
どちらともいえない	13.0%	18.1%
無回答	3.0%	7.1%

「地域活動」においても、男性の約半数が「平等」だと感じているのに対し、女性では「男性の方が優遇されている」と回答する比率の方が高く、男女間で意識の差が生じている。
ほかの分野と比べ「わからない」を選択した比率が高いのは、現に地域活動へ参加していないためと考えられる。

■社会通念、慣習、しきたり

項目	男性	女性	【参考】H26年度調査との差	
			男性	女性
平等である	28.7%	10.3%	22.0	7.3
どちらかといえば男性の方が優遇されている	36.7%	43.6%		
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.7%	1.5%		
男性の方が優遇されている	17.3%	29.7%		
女性の方が優遇されている	2.0%	0.5%		
わからない	8.0%	8.7%		
無回答	2.7%	5.6%		

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問29 社会通念、慣習、しきたりにおいて男女の地位が平等になっていると思うか。

項目	男性	女性
平等だと思う	6.7%	3.0%
どちらかといえば平等だと思う	17.0%	11.9%
どちらかといえば平等だと思わない	34.6%	31.0%
平等だと思わない	28.2%	37.0%
どちらともいえない	9.3%	10.5%
無回答	4.2%	6.6%

男女ともに「男性の方が優遇されている」と答えた比率が高い。
平成26年度調査との比較では男女ともに「平等である」と答えた比率が上昇している。

■法律や制度

項目	男性	女性	【参考】H26年度調査との差	
			男性	女性
平等である	46.7%	25.6%	33.1	21.9
どちらかといえば男性の方が優遇されている	25.3%	30.8%		
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.3%	1.0%		
男性の方が優遇されている	7.3%	18.5%		
女性の方が優遇されている	4.7%	0.0%		
わからない	8.7%	17.9%		
無回答	2.0%	6.2%		

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問29 法律や制度の上では男女の地位が平等になっていると思うか。

項目	男性	女性
平等だと思う	13.6%	3.7%
どちらかといえば平等だと思う	19.7%	15.5%
どちらかといえば平等だと思わない	27.7%	26.5%
平等だと思わない	21.3%	30.3%
どちらともいえない	13.6%	17.0%
無回答	4.0%	7.0%

「家庭生活」、「職場」、「地域活動」の分野と同様に、男性が比較的「平等」だと感じているのに対し、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答する比率の
が高い。

平成26年度調査との比較では男女ともに「平等である」と答えた比率が上昇している。

■政治

項目	男性	女性	【参考】H26年度調査との差	
			男性	女性
平等である	24.0%	10.8%	18.4	8.4
どちらかといえば男性の方が優遇されている	31.3%	29.7%		
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.0%	0.0%		
男性の方が優遇されている	30.0%	45.1%		
女性の方が優遇されている	2.0%	0.0%		
わからない	8.7%	8.7%		
無回答	2.0%	5.6%		

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問29 政治の場では男女の地位が平等になっていると思うか。

項目	男性	女性
平等だと思う	5.6%	2.4%
どちらかといえば平等だと思う	15.1%	8.2%
どちらかといえば平等だと思わない	27.4%	28.7%
平等だと思わない	38.8%	42.8%
どちらともいえない	9.3%	11.5%
無回答	3.8%	6.5%

男女で比べると、男性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、女性は「男性の方が優遇されている」と答えた比率が最も高い。

平成26年度調査との比較では男女ともに「平等である」と答えた比率が上昇している。

(2) 固定的性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うか）

問8 関連（単一回答）

項目	男性	女性
同感しない	37.3%	43.6%
あまり同感しない	30.7%	25.6%
ある程度同感する	23.3%	21.0%
同感する	3.3%	3.1%
わからない	5.3%	6.2%
無回答	0.0%	0.5%

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問30 固定的性別役割分担意識を解消すべきであると思うか。

項目	男性	女性
解消すべきだと思う	35.7%	37.0%
どちらかといえば解消すべきだと思う	33.0%	32.0%
どちらかといえば解消すべきだと思わない	12.0%	8.6%
解消すべきだと思わない	5.3%	4.2%
どちらともいえない	12.0%	14.2%
無回答	1.9%	4.0%

男女ともに「同感しない」または「あまり同感しない」と答えた比率が高い。

平成26年度市民意識調査は今回のアンケートと回答項目が異なるため、単純に比較することはできないものの、固定的性別役割意識に同感しない割合に大きな変化は見られない。

(3) 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由 問9 関連（複数回答）

項目	男性	女性
日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	17.5%	23.4%
自分の両親も役割分担している(していた)から	15.0%	12.8%
夫が外で働いた方が、多くの収入を得られるから	30.0%	31.9%
妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	40.0%	42.6%
家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	60.0%	70.2%
その他	12.5%	2.1%
無回答	2.5%	0.0%

男女ともに「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」を選択した比率が最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」を選択した比率が高い。

(4) 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない理由 問10関連 (複数回答)

項目	男性	女性
男女平等に反すると思うから	41.2%	31.1%
自分の両親はどちらも仕事で収入を得ている(得ていた)から	14.7%	21.5%
夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	39.2%	34.8%
妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	22.5%	13.3%
夫婦で家事・育児・介護を分担すれば、妻が働き続けることは可能だと思うから	42.2%	60.0%
その他	8.8%	11.1%
無回答	1.0%	2.2%

男女ともに「夫婦で家事・育児・介護を分担すれば、妻が働き続けることは可能だと思うから」を選択した比率が最も高く、特に女性は全体の6割が選択している。

(5) 子どもたちの男女平等意識育成のために必要なこと 問11関連 (単一回答)

項目	男性	女性
学校における、学級活動や児童会・生徒会活動等の役割分担について、性別に関わらず、子ども自身の希望と能力を重視する	64.0%	72.3%
学校における、進路指導や職業教育について、性別に関わらず、子ども自身の希望と能力を重視する	50.0%	69.2%
学校において、男女平等に関する授業を行う	37.3%	33.8%
家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした男女平等に関する講座を行う	5.3%	11.3%
学校の教員に対し、男女平等に関する研修を行う	24.0%	16.4%
女性の管理職(校長や教頭)を増やす	26.0%	23.6%
その他	7.3%	1.0%
特になし	6.0%	4.1%
無回答	0.7%	3.6%

男女ともに「学級活動や児童会・生徒会活動等の役割分担について、性別に関わらず、子ども自身の希望と能力を重視する」を選択した比率が最も高く、次いで「進路指導や職業教育について、性別に関わらず、子ども自身の希望と能力を重視する」を選択した比率が高い。

仕事、家庭、地域活動における男女共同参画について

(1) 仕事や就職活動における男女差 問12関連 (複数回答)

項目	男性	女性
募集や採用の面で男女に差がある	36.7%	23.1%
賃金や昇給の面で男女に差がある	32.7%	42.1%
昇進や昇格の面で男女に差がある	38.7%	36.9%
仕事の内容や配置場所の面で男女に差がある	50.0%	31.3%
職場での研修や学習の機会に男女に差がある	10.0%	9.2%
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や居づらい雰囲気がある	24.7%	44.1%
男性は育児休業や介護休業などを利用しにくい慣習や雰囲気がある	48.0%	45.1%
育児休業後は元の地位・職務で復職できない	10.7%	15.9%
仕事に就いたことがない	4.0%	3.6%
その他	2.7%	2.1%
特になし	17.3%	15.9%
無回答	1.3%	1.5%

男女を比較すると、男性は「仕事の内容や配置場所の面で男女に差がある」を選択した比率が最も高く、女性は「男性は育児休業や介護休業などを利用しにくい慣習や雰囲気がある」を選択した比率が最も高い。

(2) 男女がともに働きやすい環境づくりのために必要なこと 問13関連 (複数回答)

項目	男性	女性
男性も女性も育児休業や介護休業などを取りやすくする	59.3%	68.2%
労働時間の短縮や在宅勤務(テレワーク)など、自分に合った働き方ができる	43.3%	46.2%
子育てや介護のために仕事をやめた人が、職場復帰しやすい制度をつくる	46.7%	61.0%
賃金や昇進などの待遇面における男女差をなくす	41.3%	51.3%
保育所、放課後児童会などの数や場所を増やす	33.3%	48.2%
地域全体で、子育てや介護支援ができるネットワークをつくる	34.0%	33.8%
高齢者・病人の施設、介護サービスを充実させる	34.0%	43.6%
家庭内での家事・育児・介護の協力や分担	34.7%	50.8%
その他	2.7%	1.0%
特に必要なことはない	2.0%	1.0%
わからない	8.7%	6.7%
無回答	1.3%	0.5%

男女とも「男性も女性も育児休業や介護休業などを取りやすくする」を選択した比率が最も高い。次いで「子育てや介護のために仕事をやめた人が、職場復帰しやすい制度をつくる」を選択した比率が高く、家庭と仕事の両立支援を重視する方が多い。

(3) 家事などの分担 問14、15関連 (単一回答)

■家事

項目		男性		女性	
		希望	現実	希望	現実
外部サービス 利用なし	夫婦で同程度	48.4%	36.3%	55.6%	20.5%
	主に妻	34.1%	50.5%	30.8%	72.6%
	主に夫	3.3%	3.3%	0.0%	0.0%
外部サービス あり	夫婦で同程度	6.6%	1.1%	10.3%	0.0%
	主に妻	2.2%	2.2%	0.9%	2.6%
	主に夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
夫婦以外の家族(親など)		1.1%	0.0%	0.9%	0.9%
該当しない		0.0%	4.4%	0.9%	0.9%
無回答		4.4%	2.2%	0.9%	1.7%

家事については、男女ともに「夫婦で同程度（外部サービス利用なし）」分担することを希望と答えた比率が高いが、現実では「主に妻（外部サービス利用なし）」が担当していると答えた比率が高い。

■育児

項目		男性		女性	
		希望	現実	希望	現実
外部サービス 利用なし	夫婦で同程度	47.3%	25.3%	52.1%	16.2%
	主に妻	8.8%	23.1%	8.5%	37.6%
	主に夫	0.0%	2.2%	0.0%	1.7%
外部サービス あり	夫婦で同程度	12.1%	5.5%	20.5%	5.1%
	主に妻	0.0%	2.2%	1.7%	3.4%
	主に夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
夫婦以外の家族(親など)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
該当しない		23.1%	37.4%	15.4%	31.6%
無回答		8.8%	4.4%	1.7%	4.3%

育児については、「該当しない」を除くと、男女ともに「夫婦で同程度（外部サービス利用なし）」分担することを希望すると答えた比率が高い。男性は、現実においても「夫婦で同程度（外部サービス利用なし）」分担していると答えた比率が高い一方、女性は「主に妻（外部サービス利用なし）」が担当していると答えた比率が高く、男女間で回答に差が見られる。

■介護

項目		男性		女性	
		希望	現実	希望	現実
外部サービス 利用なし	夫婦で同程度	31.9%	17.6%	38.5%	6.8%
	主に妻	6.6%	7.7%	6.0%	19.7%
	主に夫	1.1%	2.2%	0.0%	0.0%
外部サービス あり	夫婦で同程度	19.8%	4.4%	23.1%	5.1%
	主に妻	2.2%	2.2%	3.4%	1.7%
	主に夫	1.1%	1.1%	1.7%	1.7%
夫婦以外の家族(親など)		0.0%	1.1%	1.7%	0.9%
該当しない		31.9%	58.2%	21.4%	54.7%
無回答		5.5%	5.5%	4.3%	9.4%

介護については、「該当しない」を除くと、育児と同様に男女ともに「夫婦で同程度（外部サービス利用なし）」分担することを希望と答えた比率が高い。男性は、現実においても「夫婦で同程度（外部サービス利用なし）」分担していると答えた比率が高い一方、女性は「主に妻（外部サービス利用なし）」が担当していると答えた比率が高く、男女間で回答に差が見られる。

（４）地域活動への参加度（過去１年の間に参加したことがある人の割合）

問16関連（単一回答）

項目	男性	女性
自治会、町会（町内会）の活動	27.3%	24.6%
P T Aや子ども会の活動	12.0%	19.5%
民生委員、児童委員などの公的な活動	3.3%	1.0%
市民団体やボランティアなどの活動	12.0%	9.7%

「P T Aや子ども会の活動」以外はいずれも男性の方が「過去１年の間に参加したことがある」と答えた比率が高い。

(5) 地域活動に参加しない理由 問17関連 (単一回答)

項目	男性	女性
活動するための施設が近くにないから	15.1%	11.9%
地域活動に関心がないから	19.4%	15.6%
地域で興味や関心の持てる活動が行われていないから	23.7%	17.4%
地域活動に関する情報が少ないから(どのような活動が行われているかわからない)	50.5%	33.9%
仕事が忙しくて時間がないから	36.6%	44.0%
家事・育児・介護などで忙しくて時間がないから	8.6%	22.9%
経済的に余裕がないから	14.0%	11.0%
家族の理解や協力が得られないから	2.2%	0.9%
一緒に活動する仲間がないから	23.7%	12.8%
他人と一緒に活動するのがわずらわしいから	16.1%	18.3%
その他	10.8%	12.8%
無回答	0.0%	0.0%

男女を比較すると、男性は「地域活動に関する情報が少ないから(どのような活動が行われているかわからない)」を選択した比率が最も高く、女性は「仕事が忙しくて時間がないから」を選択した比率が最も高い。

(6) 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人活動」の優先度
問18、19関連 (単一回答)

項目	男性		女性	
	希望	現実	希望	現実
「仕事」を優先	12.1%	39.4%	7.1%	36.6%
「家庭生活」を優先	19.2%	17.2%	20.5%	17.0%
「地域活動・個人の活動」を優先	5.1%	1.0%	2.7%	1.8%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	36.4%	26.3%	42.0%	28.6%
「仕事」と「地域活動・個人の活動」をともに優先	6.1%	4.0%	1.8%	2.7%
「家庭生活」と「地域活動・個人の活動」をともに優先	4.0%	5.1%	5.4%	1.8%
「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の活動」をともに優先	12.1%	1.0%	12.5%	3.6%
その他	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%
わからない	1.0%	2.0%	1.8%	1.8%
無回答	3.0%	3.0%	6.3%	6.3%

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問34、35 「仕事」と「仕事以外の生活（家庭・地域・個人）」の優先度。

項目	男性		女性	
	希望	現実	希望	現実
「仕事」を優先	3.8%	16.5%	2.2%	10.0%
どちらかといえば、「仕事」を優先	11.7%	31.9%	6.7%	19.2%
「仕事」と「仕事以外の生活（家庭・地域・個人）」を両立	45.8%	17.1%	44.7%	20.9%
どちらかといえば、「仕事以外の生活（家庭・地域・個人）」を優先	10.4%	7.1%	15.9%	14.4%
「仕事以外の生活（家庭・地域・個人）」を優先	16.5%	13.9%	15.8%	19.6%
わからない	8.5%	10.1%	10.9%	11.9%
無回答	3.2%	3.4%	3.7%	4.0%

男女ともに希望においては、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」と答えた比率が高いが、現実では「「仕事」を優先」と答えた比率が高く、希望と現実に隔たりがあることが分かる。

平成26年度調査との比較では、女性は希望と現実のどちらにおいても「「仕事」と「仕事以外の生活（家庭・地域・個人）」を両立」と答えた比率が高かったが、今回の調査では、現実には「「仕事」を優先」と答えた比率が最も高く、状況の変化がうかがえる。

(7) 男性が積極的に家事などに参画するために必要なこと 問20関連（複数回答）

項目	男性	女性
男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	45.3%	55.4%
男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	15.3%	16.9%
子どもの頃から、性別にかかわらず家事・育児などができるようなしつけや育て方をする	50.0%	67.7%
年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重する	25.3%	29.7%
男性による家事、育児、介護について、職場における上司や周囲の理解を進める	45.3%	54.4%
労働時間短縮や育児・介護休暇制度、在宅勤務（テレワーク）などを利用し、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	33.3%	40.0%
男性による家事・育児などについて、男性当事者の実践例などの情報提供、相談窓口の設置、技能講習会を行う	18.0%	16.4%
男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りを進める	18.0%	14.9%
その他	1.3%	1.0%
特に必要なことはない	2.0%	2.6%
わからない	6.7%	5.1%
無回答	1.3%	3.6%

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問31 男性が積極的に家事などに参加するためにどのようなことが必要だと思うか。

項目	男性	女性
男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	38.5%	43.5%
男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	11.7%	14.2%
子どもの時から男女平等意識を育てる	37.5%	36.8%
「男は仕事、女は家庭」といった考え方を改める	30.4%	32.8%
仕事と家庭生活の両立に関して職場の理解を進める	49.4%	50.5%
労働時間の短縮や在宅勤務など自由な働き方を普及させる	27.4%	19.6%
育児・介護休暇を普及させる	35.7%	33.3%
男性が仕事中心の考え方を改める	25.0%	19.8%
その他	3.5%	1.6%
わからない	2.6%	3.3%
男性が家事・育児などに参加する必要はない	0.3%	0.5%

男女とも「子どもの頃から、性別にかかわらず家事・育児などができるようなしつけや育て方をする」を選択した比率が最も高く、子どもの頃からの教育が必要と考えている方が多い。

平成26年度市民意識調査との比較では、子どもの頃からの教育が必要と考えている方の比率が高くなっている。

配偶者やパートナーからの暴力について

(1) DV経験の有無 問21関連 (単一回答)

■身体的暴力

項目	男性	女性
何度もあった	0.0%	1.0%
1～2度あった	0.7%	3.1%
なかった	68.7%	68.7%
パートナーがいなかった	20.0%	15.9%
無回答	10.7%	11.3%

■精神的暴力

項目	男性	女性
何度もあった	1.3%	6.7%
1～2度あった	3.3%	8.7%
なかった	64.7%	57.4%
パートナーがいなかった	20.0%	15.9%
無回答	10.7%	11.3%

■性的暴力

項目	男性	女性
何度もあった	0.0%	2.6%
1～2度あった	0.0%	2.1%
なかった	69.3%	67.7%
パートナーがいなかった	20.0%	15.9%
無回答	10.7%	11.8%

■経済的暴力

項目	男性	女性
何度もあった	0.7%	2.6%
1～2度あった	0.0%	4.6%
なかった	68.7%	66.2%
パートナーがいなかった	20.0%	15.9%
無回答	10.7%	10.8%

■社会的暴力

項目	男性	女性
何度もあった	0.7%	2.6%
1～2度あった	0.0%	4.1%
なかった	68.7%	65.6%
パートナーがいなかった	20.0%	15.9%
無回答	10.7%	11.8%

■全体

項目	男性	女性
あった※1	4.7%	17.9%
なかった※2	84.7%	70.8%
無回答	10.7%	11.3%

※1 暴力の形態別のいずれかの設問において「何度もあった」または「1～2度あった」と回答したもの

※2 暴力の形態別のいずれかの設問において「なかった」または「パートナーがいなかった」と回答したもの

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問38 DV（ドメスティック・バイオレンス）を受けたことがあるか。

項目	男性	女性
あった	3.4%	11.3%
なかった	91.8%	83.8%
無回答	4.8%	4.9%

平成26年度調査と比較すると、配偶者やパートナーから暴力を受けた経験があると答えた比率は、男女ともに上昇している。

暴力の形態別に見ると、「精神的暴力」を受けた経験があると答えた比率が最も高い。

(2) 誰か（どこか）に相談したか 問22関連（単一回答）

項目	男性	女性
相談した	0.0%	28.6%
相談しなかった	85.7%	65.7%
無回答	14.3%	5.7%

【参考】平成26年度第3回市民意識調査

問38 受けた行為について誰かに相談したか。

項目	男性	女性
相談した	19.0%	48.8%
相談しなかった	76.2%	51.2%
無回答	4.8%	0.0%

男性は「相談した」と答えた比率は0%であり、女性は28.6%である。

平成26年度調査との比較では、男女ともに「相談した」と答えた比率が低下している。

(3) 誰(どこ)に相談したか 問23関連(複数回答)

項目	男性	女性
家族、親戚	—	90.0%
友人、知人	—	50.0%
警察・交番	—	10.0%
青森市DV相談支援センター	—	0.0%
青森市男女共同参画プラザ「カダール」のカダール相談室	—	0.0%
上記以外の公的な相談機関	—	0.0%
民間のDV相談機関	—	0.0%
人権擁護委員、民生委員	—	0.0%
弁護士	—	0.0%
医師、カウンセラー	—	0.0%
その他	—	0.0%
未回答	—	0.0%

女性の相談先については「家族、親戚」を選択した比率が90.0%と最も高く、次いで「友人、知人」を選択した比率が高い。

(4) 相談しなかった理由 問24関連(複数回答)

項目	男性	女性
どこに相談してよいかわからなかった	0.0%	0.0%
人に知られたくなかった	16.7%	21.7%
相談しても無駄だと思った	16.7%	34.8%
相談したことがわかると仕返しをされると思った	0.0%	4.3%
自分さえ我慢すれば何とかやっていたらと思った	33.3%	21.7%
恥ずかしいと思った	0.0%	8.7%
世間体が悪いと思った	0.0%	4.3%
他人を巻き込みたくなかった	0.0%	13.0%
自分にも悪いところがあると思った	50.0%	8.7%
相談するほどではないと思った	50.0%	43.5%
その他	0.0%	0.0%
未回答	0.0%	0.0%

男性では「自分にも悪いところがあると思った」、「相談するほどではないと思った」を選択した比率が高く、女性では「相談するほどではないと思った」、「相談しても無駄だと思った」を選択した比率が高い。

性の多様なあり方について

(1) 性的マイノリティに関連する用語の認知度（各用語知っている人と回答した人の割合）
問25関連（単一回答）

項目	男性	女性
性的マイノリティ	78.6%	81.5%
LGBTQ	77.3%	80.0%
レズビアン	90.6%	95.4%
ゲイ	91.4%	95.9%
バイセクシュアル	77.3%	80.0%
トランスジェンダー	82.6%	87.2%
クエスチョニング	26.0%	19.0%
カミングアウト	78.7%	85.6%
アウティング	24.7%	15.9%
SOGI	12.7%	6.7%

男女ともに「SOGI」、「アウティング」という用語について、言葉も意味も知らない人と回答した比率が高い。

(2) 性的マイノリティの方に対する理解が進んでいると思うか 問26関連（単一回答）

項目	男性	女性
そう思う	12.0%	9.7%
どちらかといえばそう思う	32.7%	34.9%
どちらかといえばそう思わない	17.3%	15.9%
そう思わない	11.3%	13.3%
わからない	20.0%	16.9%
無回答	6.7%	9.2%

男女ともに「どちらかといえばそう思う」と回答した比率が最も高い。

男女共同参画社会の実現について

(1) 行政はどのようなことに力を入れるべきか 問27関連 (複数回答)

項目	男性	女性
男女平等を目指した制度の制定や見直しを行う	46.0%	43.6%
学校や学習施設で、男女共同参画についての教育や学習を進める	47.3%	42.6%
政策・方針決定の場(各種審議会等)で性別に偏りのない参画を進める	38.0%	39.0%
地域や団体に活躍できる女性リーダーを育成する	20.7%	18.5%
男女の雇用の機会や条件の差をなくすように、会社や事業主に働きかける	42.0%	46.2%
男性の育児休業取得や短時間勤務、女性の管理職への登用などを会社や事業主に働きかける	34.7%	44.1%
女性の意識や能力を高める学習や研修の機会を増やす	14.7%	19.0%
子育てや介護を支援する施設・サービスを充実する	36.7%	50.8%
性別での差別や暴力などへの相談体制や被害対策を充実する	26.0%	28.2%
男女の平等とお互いの理解や協力についての意識啓発を強化する	34.7%	31.3%
その他	5.3%	2.6%
未回答	3.3%	6.2%

男性は「学校や学習施設で、男女共同参画についての教育や学習を進める」を選択した比率が最も高く、女性は「子育てや介護を支援する施設・サービスを充実する」を選択した比率が最も高い。